

オアシス新聞

第三十九号

最も身近な秋の七草 ススキとクズ

『春の七草』は七草粥に入れる食材として店頭にも並ぶので比較的なじみがありますが、実は『秋の七草』というものがあるのをご存知ですか？秋の七草は春の七草のように食用とはせず、観賞する植物として選定されています。では秋の七草はなにかというと、万葉集で山上憶良が『萩の花 尾花 葛花 撫子の花 女郎花 また藤袴 朝貌の花』と読み上げています。ハギ、ススキ、クズ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、そして朝顔はキキョウのことだと言われています。いわゆる雑草である春の七草もスーパーで買う時代ですから、秋の七草を現代の野原で見つけることは容易ではないでしょう。

その中でも風情はあるものの厄介な雑草としてはびこるものにススキとクズがあります。空き地や野山がある地域ならばいくらでも生える植物ですが、街中に住む人にはもはや珍しい植物かもしれせん。ススキとクズは、昔は生活の中に取り入れられて、活用されてきた植物です。ススキはかやぶき屋根の材料として、また、牛馬の飼料や畑の肥料にと使われていました。クズは食用や薬用として根から葛粉を取りだしたり、強靱しなやかなツルは編んだり束ねたりする資材として利用してきました。現在ではそういった利用がほとんどないため、はびこって荒地地の象徴となつてしまっています。最近では昔の生活様式が見直されていたりもします。一周年まわってかやぶき屋根や天然材料の生活雑貨などもっと利用されるようになると思いますよ。

ちなみに葛粉は何mもの長さの太い根を地面から掘り出し、それを粉碎して水にさらしてデンプンを沈殿させ、何度も何度も水を換えて不純物を取り除き、百kgあった根っこからわずか1kg足らずしか葛粉は採れないのだそうです。そんな手間がかかった本葛粉の値段が高いのは、仕方がないことなのです。

クズのツルはアケビや藤のように繊細さはないですが、リースやかごを編むと武骨で力強い味のある作品がごきあがりします



ススキの穂はふわふわフクロウや卓上ほうちきなどが作れます



トライノミノウエツツクサ インテリマニセ ナシヨウケ

その昔道端でクズツルの先端を摘んでいる人がいた。なにをするんだと問いましたが、天ぷらやみみしたにして食べられるのだとか



毒がなまやとりあえず天ぷらにするればなんども食べられる…？

天ぷら神話!